

## 神戸市総合基本計画審議会第2回総会 議事要旨

- 1 開催日時：平成22年2月24日（水）13：00～15：00（於：神戸国際会館9階大会場）
- 2 議事要旨
  - ・会議に先立ち、矢田神戸市長の挨拶の後、事務局よりこれまでの審議経過(資料2)の説明を行った。
  - ・会長により議事に入る旨の発言があり、事務局に対して資料の説明を求めた。
  - ・事務局より「全体の構成について(資料3)」及び「神戸づくりの指針素案(資料4)」並びに「専門部会での委員意見、関係団体等ヒアリング及び市民意見のまとめ(資料4参考資料)」の説明がなされた。
  - ・以下、審議会における委員の主な発言は以下のとおりであった。

### 【全体の構成等について】

(ユニバーサル社会について)

- ・P24「ともに支えあう社会をつくる」は、ユニバーサル社会のことだと感じたが、第3部にユニバーサルデザインの「一人ひとり」、その文章のむすび部分では「ユニバーサル社会」とのキーワードが使われている。「ユニバーサル社会」の言葉を最初に出して大きな概念で表現するほうが良い。

(みなとの今後のあり方について)

- ・神戸は港とともに発展してきたということが書かれているが、今後の港のあり方についてはどう考えているのか、視点が見えづらい。どこに書かれているのか。

(高齢者対策について)

- ・今後15万人も65歳以上の人が増加することについて、高齢弱者に対する対策、視点が見えないがどう書かれているか。

(事務局)

- ・港については、神戸市は港がまちの発展の原点であり、第5部 都市活動を支えるための神戸港・神戸空港の機能強化の意味を持たせ、「総合交通ネットワークの形成」と、第2部にも記述している。また、第7部「世界の中での神戸」を確立するに「みなとを核にして世界に開く」ことを宣言している。
- ・高齢化については、P90にあるように2005年から2025年にかけて75歳以上がほぼ倍に近い数字であり、それと同様の規模の人口減が15歳から64歳で起こっている。福祉、高齢化の視点は、P20の第2部冒頭で少子・超高齢化の進行など将来に対する不安の高まりに対する早急な取り組みが必要になっているとの記述と、「福祉のセーフティネットや医療、住まい等の充実」で記載している。少子・高齢者に対する視点は全編において書かれている。

### 【くらしをまもる等について】

(在宅医療の記述について)

- ・P26「安心なくらしをまもる」について、人口動態で65歳以上の方が神戸が暮らしやすいから流入するという話を聞く。「ともに進める取り組み」の中で、地域のなかでその人らしく生活できることを支えるための「在宅医療の視点」の記述があるのか。

(健康にかかる記述表現について)

- ・P27のキ「自分たちの健康は自分たちでまもる」という理念のもと」とあるが少し言い過ぎで、先天的

な疾患を持った方々は自分の健康は自分でまもれない。「自分たちの健康は自分たちでまもる」という基本的考え」という表現がよい。

(事務局)

- ・ 「在宅医療」は、P24①「支援のしくみのいっそうの充実を図ります」の中で、保健・医療・福祉という表現で総合的・専門的かつ継続的な対応を進めるとし、P25④「地域での支えあいを進めます」では、支援を要する人への支援体制、また、ウで「保健・福祉・医療などの関係者のネットワーク強化」等々など、保健・福祉が一体になった取り組みということで記述している。

### 【雇用、多様な働き方について】

- ・ P28 雇用のミスマッチの解消、多様な働き方の推進と書かれている。今の状況の中で求められているのは派遣、有期、非正規雇用を改めることであり、正規雇用を当たり前とする社会をめざすと書くべき。また、神戸市の任期付職員に非正規雇用をつくることは改めるべき。
- ・ 働きやすい環境を整えるには、企業に雇用を押しつけ、依存するのではなく、地域の中で安心できる働き方、環境を整えていくことやワーク・ライフ・バランスもその方策の一つである。「社会的企業」という新しい主体が新たな労働市場をつくっていくという考え方もある。正規雇用を当たり前とするとの記述を書き込んでしまうのは難しいと思う。

### 【経済を発展させる等について】

(中小企業の記述について)

- ・ P32、P33 に市内に圧倒的多数を占める中小・小規模、零細事業者に関して今後どうしていくかの記述が希薄と感じる。ここに書かれている中小企業の記述は非常に強い中小ものづくり企業のことであり、明日の仕事にも困る中小・小規模事業者の現状を踏まえ市として底上げをどうしていくかの記述があってもいい。
- ・ ものづくりは大変重要であると考えており、展望を開いていくというところに重点を置いた記述になっている。今後、底上げといった点を配慮した上で記述を深めていければと思う。

(産業集積に向けた土地利用について)

- ・ P35 企業誘致で、産業集積を図るために六甲アイランドやポートアイランド、空港島の土地利用の転換で産業用地を創出すると書かれている。神戸空港は、市民の半数の反対を押し切ってつくった大型プロジェクトで、包括外部監査でも造成地の売却処分が計画どおりに進んでいないとの指摘もあった。計画どおり進んでいないということを踏まえておくべき。

(産業における行政の役割)

- ・ 福祉・医療は行政で実行できるが、産業、商業、雇用などは民間企業が大きなウエートを占めている。行政がどこまで支えられるのか。例えば、港や中小零細企業などは公共事業で予算執行しないかぎり支えきれないが行政のみでできるわけがない。どうすべきかについて、産業はもっと時間をかけて考えないといけない問題である。

(産業分野の構成について)

- ・ 経済については、「暮らしを支える産業」、「ものづくり産業」、「観光」のまとめ方だけでいいかどうか、もう少し掘り下げた表現があってもいい。それらの点について議論を進めたい。

## 【ひとを育む、新たな豊かさの創造等について】

(学校教育のあり方について)

- ・ P40、P41「子どもを健やかに育む」⑥⑦について、子どもは3歳から22歳までの20年間は学校で育っている。将来の子どもに対する影響は学校教育が担っている。学校教育のあり方を前面に打ち出せないか。

## 【まちの安全、低炭素社会等について】

(防災について)

- ・ P50「市民に対して、防災意識の向上を進めます」は最初に位置づけるべきである。やるべきことを先に記述するよりは、神戸の安全の認識がどうかを書いた上で防災意識を高めるといった項目を最初においたほうがよい。
- ・ 地球温暖化イコール低炭素社会の構築というのは緩和の方向に寄りすぎている。P50の課題に、安全・安心の大前提として、温暖化の影響には極端気象が頻繁化、激化するという視野もいれるべきで、防災の記述は、風水害対策、地震対策（南海・東南海地震）という昔ながらのハザードシナリオという印象がある。今後、部会で検討いただきたい。

(低炭素社会について)

- ・ P56「低炭素社会の実現に貢献する産業を振興します」の中で、例えば、カーシェアリング、モノ依存から機能利用することによってサービス利用することなど、IT利用の低炭素型サービス産業の振興を入れてはどうか。
- ・ 省エネ型製品の選択に対する情報提供、エコポイントなどの記述がないので、P56④あたりに促進すると記述してはどうか。
- ・ P56④の低炭素社会に、市民の生活ぶりなどの提案を書けば省エネ生活が進むと思う。企業は技術的に進歩しているが、生活者、特に若い人は昔の暮らしぶりがわからないので理解が深まる。

## 【神戸を支えるまちの形成について】

(都市交通網について)

- ・ P60 地図では、ウォーターフロントには交通網が整備されている。みどりのゾーンや田園ゾーンはつながってない。将来を見据えて行き来しやすいような交通網を考えていただきたい。
  - ・ P65の広域幹線道路ネットワークの道路整備に「湾岸線西伸部」が入っているのか。市からその後の話しがあまりないので確認したい。また、「スーパー中枢港湾」は「国際コンテナ戦略港湾」に変わろうとしている。この表現はどうなるのか。

(事務局)

- ・ 湾岸道路西伸部は、P60 図面の計画中路線として、ポートアイランドと六甲アイランドを結ぶところから西方向へ延びている西伸部として表記している。また、スーパー中枢港湾、国際コンテナ戦略港湾の記述は、国等の動向に注視して対応していく。

## 【都市の効率的経営、都市戦略等について】

(行財政経営の記述について)

- ・ P70 課題解決のためにはスピーディーで柔軟な対応ということを実現することが必要という記述で終えずに、行政の縦割りや単年度予算執行という縛りもあるが、行財政計画の中で、予算の基金化や市民のチャレンジ的な事業、ソーシャルビジネスに対応できる予算組み等も盛り込んでほしい。

(あるべき姿について)

- ・ 2025年の神戸のあるべき姿のイメージがわきにくい。まちづくりや経済についても、もう少し全体構成や考え方がみえるよう構成を考えていただきたい。例えば、経済については、暮らしを支える経済やものづくりの経済に分かれて書かれている。まとめてはどうか。

(デザイン都市・神戸について)

- ・ 2025年の神戸の姿としてどこをめざそうとしているか。今までの計画や他都市にはない「デザイン都市をめざす」ということではないか。デザインという言葉は入っているが「まち」「ものの付加価値」のレベルではなくまち全体が生活、経済も包含する、革新を与えていく文化技術として使う発想が必要。
- ・ 「豊かな地域コミュニティ」と「デザイン」を掛け合わせたときに、新しい神戸らしさが出てくると思う。その点を構成や内容に盛り込んでいただきたい。

(ダイバーシティについて)

- ・ 全体を通して、たくさんの方が書かれているが、それらを実現する原動力は第7部に書かれているダイバーシティ・マネジメントだということがわかった。例えば、グローバリズムの中では英語教育だけでなく教員の国際教育も必要だろう。行政自らダイバーシティ・マネジメントを進めるという大きな考えがあれば、実現に向けての大きな判断基準となる。

(全体の構成、記述について)

- ・ 「～進めます。」「～促進します。」との記述が多くあるがどう進めるか。神戸市は他都市に先駆けて行政改革を進めて評価を得ており、また、市民生活や産業では市民、企業が自主的に取り組み、先駆的な役割を果たしている。努力をした結果として、市民や団体が将来に自信を持てるようまとめられるのがよい。

- ・ 引き続き、会長からその他報告事項として、「各区計画の検討状況（中間報告）（資料5）」及び「第4次基本計画における未達成事項等（資料6）」、「神戸市における「都市戦略」等の概要（資料6参考資料）」、「今後の審議日程（資料7）」の説明を求め、事務局より資料に基づき説明を行った。
- ・ 会長により、本日の議事の終了が告げられ、今後、部会ごとに「神戸づくりの指針素案（資料4）」について議論を進め、第3回総会にて審議会中間案としてとりまとめていくことが確認された。
- ・ 会長により閉会が告げられ、本会議は終了した。

以上

## 神戸市総合基本計画審議会第4回都市空間部会 議事要旨(案)

日時： 平成 22 年 3 月 31 日（水） 9：30～11:30

場所： 神戸市役所 1 号館 28 階 第 4 委員会室

出席者：安田部会長ほか 17 名

### 【会議要旨】

- ・ 事務局より、これまでの審議経過と今後の審議予定（資料 2）の説明、第 2 回総会会議要旨（資料 3）についての確認等が行われた。
- ・ 安田部会長から議事次第に従い議事に入る旨発言があり、事務局より、本日の議題である「神戸づくりの指針 素案」（資料 4）について、概要版（資料 5）、部会の審議事項一覧（資料 6）、目次対照表（資料 7）などにより順次、説明が行われ、審議された。（審議内容についての委員意見は以下のとおり。）

議題：「神戸づくりの指針」素案の審議

1. 素案の全体構成等について（資料 5 神戸づくりの指針 素案 概要版）

### 【全体構成等について】

（序論の記述について）

- ・ 序論に震災復興を出発点にして、「安全・安心」を掲げるのはおかしいのではないか。序論では、震災後、まちが安全になっているかを示し、耐震化の取り組みがなかなか進まない、密集市街地で市街地火災の危険なところが残っている、異常気象により河川での災害が起こっている、少子超高齢化により人による対応が困難になっている課題を記載すべきではないか。
- ・ 立脚しているところの書きぶりの問題だと思う。指針自体は重点施策の考え方を示すところにポイントがある。施策については重点施策計画での議論があるものと考えている。（超高齢化への対応について）

- ・ この指針では、少子超高齢化が社会潮流として上げられている。少子化については、第 3 部で大きく取り上げられている。超高齢化についての対応の項目をあげていく必要があるのでは。

（むすびの記述について）

- ・ むすびの記述が、メガ・リージョンに引っ張られすぎていると感じる。人財もよいのだが、やはり神戸らしさがポイントではないか。むすびは、神戸には自然・文化・歴史資源があり、それを大事にしたまちづくりを行っていくということで締めくくるべきではないか。そういう流れでいくと、部の構成も 5、7、6 という並びがよいのではと思う。

(事務局)

- ・まちの安全に対するご指摘は、われわれも共通の認識をもっている。
- ・超高齢化への対応について、ご指摘の点は重大な問題と受け止めており、指針素案においては、全部にわたって記載させていただいているところである。

## 2. 都市空間部会の審議事項 (資料4 神戸づくりの指針 素案)

### 【安全を高め未来につなぐ 等について】

(低炭素社会の実現について)

- ・ P54 の低炭素のところでは、「進める」「導入」「推進する」といろいろな言葉を使われているが、言葉の使い分けについて説明してほしい。
- ・ P56 市民参加の部分が少ない。④には3Rの取り組みがあるが市民行動を具体的に記載してほしい。例えば2025年には生ごみをバイオの技術で肥料化することも一般化していると思うので、そのような記載があってもよいのではないか。
- ・ 「歩いて暮らせるまちづくり」は大事。記述内容として2025年をめざしてのものというよりは、現状からみた記述が多く、表現が弱いような気がする。例えば商店街が建てられないところに建てられるようにするのか。もう少し記述を見直す必要があるのではないか。
- ・ P54 ともに進める取り組みの①ア(ウ)「利便施設等の維持・誘導を図ります」の記述の「誘導」は、「立地」に表現を変えるべきでは。
- ・ P54 ともに進める取り組みの①イ(イ)「六甲山系南側の既成市街地における公共交通ネットワーク」「回遊を支援する環境にやさしい公共交通」で具体的なイメージが湧かない。新たにどんなものを導入しようとしているのか。
- ・ LRTも市がやる発想ではなく、民間ベースで実現可能かどうかを考えていく時代である。市街地が山麓部まで伸びていく話があったが、市街化区域の拡大を抑制する方向性はぜひ守ってもらいたい。

(まちの美しさ、景観の記述について)

- ・ P53 の景観の部分で、特徴的なまちなみを有する地区として北野、旧居留地の次に南京町の記述を追加できないか。

(事務局)

- ・ 記述表現について、「進める」「推進する」はほぼ同義で使っている。導入は新しく取り組むということで考えている。
- ・ 公共交通ネットワークについて、神戸はもともと3層構造として阪急、JR、阪神が起点となってきたが、これまでの市街化により南北に居住地などが伸びてきている。その意味では山麓交通軸、ウォーターフロント交通軸といった考え方で、公共交通のネットワークを維持形成しようとしている。

- ・ ウォーターフロントではLRTなどは採算上の問題もあるので慎重な対応が必要と考えている。いずれにしても、低炭素社会を実現する環境にやさしいもので、定時性の確保が可能な交通手段を検討していきたい。

### 【神戸を支えるまちの形成等について】

(海・空・陸の総合交通体系について)

- ・ P64 ともに進める取り組みの①ア(イ)「関西三空港の一体運用」は先行きが不透明な状況であるが、神戸空港自体の機能強化を図る記述を後に入れられないか。
- ・ P64 のめざす姿「利便性の高い公共交通ネットワークの形成をめざします。」のところの公共交通ネットワークは市営のみを考えているのか。
- ・ 都市計画道路で不要になっているものもある。地域が「廃止したい」と考えるなら、合意して手続きをすればできるかもしれないが、「半分の幅員でつくってほしい」というところもある。その場合、廃止してもう一度地域で計画を作るのは市民の負担が大きい。地域と協働して、行政が主導して取り組むような仕組みが必要だと思う。

(事務局)

- ・ 公共交通ネットワークについて、公共交通事業者として市営だけでなく、民間事業者も当然入っている。
- ・ 都市計画道路については、一般的にいわれる幹線道路は約98kmが未着手の状態となっている。計画決定のうち8割は整備済みであり、政令指定都市の中では高い整備率であるが、残るものの60%が計画決定からすでに60年を経たものとなっており、今後、効果的・効率的な整備を進めることが必要となっている。道路には骨格をになう道路と生活道路があるが、P65(オ)では主に骨格をになう道路について効果的・効果的な整備を推進することを、また生活道路については、道路の問題だけでなくまちの課題の解決としてどう考えていくのかという視点が必要と考えて同イ(ウ)のように記載しており、今後、具体的な施策に反映していきたいと考えている。

### 【地域の特色ある環境を育む等について】

(ニュータウンのオールドタウン化への対応)

- ・ P74 ニュータウンのところでは住宅ストックの更新が必要となるはずで、ニュータウンのオールドタウン化ではなく、高経年マンションへの対応などを記載したほうがよいのではないか。
- ・ 高経年マンションへの対応はP27のすまいの記述のところで記載内容を工夫して対応するのがよいと思う。

(密集市街地の再生)

- ・ P74 密集市街地のところにも、都市計画道路の件を書けるのではないかと。
- ・ P74 長田では密集市街地への対応は重要で、指針に盛り込んでいるのは良い。長田に

ついで言えば、以前は西の副都心といていたが、それも今回はない。

(田園地域の活性化)

- ・ P75 の田園地域のところで、自給率が大切である旨を記載すべきではないか。また漁業の記述も必要かと思うが。

(事務局)

- ・ 自給率が低い状況であるので、P30 農水産業の記載部分で、地産地消の推進を記載している。こうべ給食畑といった取り組みなどを行っているところである。

## 【リーディングエリアについて】

(ポートアイランド)

- ・ P83 とともに進める取り組みの①カ「空港島とPIの連携、一体的なまちづくり」というのは疑問がでる可能性がある。十分な説明ができるよう準備しておく必要がある。

(兵庫運河周辺)

- ・ P84「兵庫運河周辺」について。いま新長田では鉄人プロジェクトで盛り上がっており、150万の人が鉄人を見に来られている。まさにメガ・リージョンの取り組みだと思いが、兵庫運河周辺には新長田は入っているのか。
- ・ P82 に今後も国際的な都市間競争に負けない選ばれる都市の記述があるが、誰に選ばれると考えればよいか。この表現だと、神戸は今、選ばれる都市ということになるのか。またリーディングエリアとして兵庫運河を位置づけているのは、本当にふさわしいのだろうか。
- ・ 運河周辺の企業が持っている世界と連携した取り組みは、市民にとっても非常に大きな財産である。これまではそのような取り組みは企業がやっていることといった程度の認識だったが、地域ぐるみでやっているということ位置づけることは非常に良いことだと考える。
- ・ 兵庫運河というネーミングがもっと魅力あるネーミングになれば、印象が変わるかもしれない。

(事務局)

- ・ 兵庫運河周辺については、運河周辺の基幹産業エリアも含めた範囲と考えている。新長田についてはこのエリアの対象とはしていない。
- ・ 都市間競争の記述の部分で、誰に選ばれるかということ国内外の方ということになる。事業者や大学なども含まれる。兵庫運河周辺については記述にもあるが、世界最先端の技術を有する企業が集積しており、神戸としては大事にしていくべきエリアと考えている。ご指摘の意見もあり、ご議論いただきたいところである。



## 【その他について】

(記述表現について)

- ・ 指針の構成だが、序論で始まりむすびで終わっている。むすびで終わるなら、「はじめに」と大和言葉で書いてはどうか。

(個人の意識向上について)

- ・ 低炭素社会の実現、減災への取り組み、密集市街地の再生の問題、個人個人の行動が必要と思われる。個人の意識を変えることが重要であり、記述の優先順位を上げるべき。P51の⑤防災意識の向上についても、①として記載すべきと考える。
- ・ 市民の意識向上を最前列に持ってきた場合、行政は何もしないのか。といったご意見もでてくる。そのあたり調整部会での検討が必要と思われる。

(六甲山のビジョンについて)

- ・ 先日、松方ホールで六甲山の歴史・植生・観光などをテーマにしたフォーラムを開催した。3時間あまりのフォーラムで、アンケートも6割回収できるなど市民の六甲山に対する関心の高さがうかがえた。六甲山は非常に有名で、市民の財産である。ところがリーディングエリアに六甲山が上がっていない。六甲山をどうするかというビジョンを示さないのはどうか。
- ・ 六甲山の記述を増やすご意見があったが、例えば、P52 めざす姿の港、異人館、酒蔵、温泉、田園のところの記載に六甲山を加えることで対応できるのではと思う。

(縮退の取り扱いについて)

- ・ 縮退の件について、向こう30年を考えると想像したくない人口動向が推計されている。ただ、いまの記述では縮退の図式が見えない。強く書く必要はないが、ひどいところにメスをいれておかないといけないのではないか。

(総合基本計画の視点について)

- ・ マスタープランと実施計画の体系をよく頭にいれてやっていただきたい。神戸に住んでいるからといって、神戸だけに目を向けてはいけない。せめて関西における視点が必要ではないか。
- ・ 一番大事なことは市民が主役のまちであること。9区が自分たちのよいところをPRしていこうとしている。やはり行政のほうが夢をもって、方向性を示していただき、それを私たちが担って実行していくまちこそ栄えていくのではないか。

以 上

## 神戸市総合基本計画審議会第4回市民生活部会 議事要旨（案）

日時：平成22年3月25日（木）13：30～15：30

場所：三宮研修センター5階505号室

出席者：松原部会長ほか委員12名

### 【議事要旨】

- ・事務局より、これまでの審議経過（資料2）及び第2回総会の議事要旨（資料3）の説明を行った。
- ・会長により議事に入る旨の発言があり、事務局に対して資料の説明を求めた。
- ・事務局より、全体構成の考え方（資料5）、及び指針素案のうち市民生活部会の所管事項部分（資料6）の説明を行った。（審議内容についての委員意見は以下のとおり。）

### 【全体を通じて】

- ・計画策定の前提、取り組みの方向性、そして支える仕組みやまちのあり様などが記載されている。このようなまとめ方もあり得ると肯定的に理解している。
- ・どのような神戸を目指すのかが浮き彫りにされる第7部では、もう少しイメージが膨らむような表現にできないか。『協創』という新しい言葉より、もっと分かりやすい言葉の方が良いのではないか。
- ・「ひとが集い・交わり・活きる『協創』のまち」の『協創』が分かりにくいという意見があったが、「人が集い、交わり、活きるまちを『協創』で」とすれば分かりやすいのではないか。
  - （事務局）
  - ・ 『協創』は、これまで取り組んできた「協働と参画」をさらに進めて、ともにまちづくりを進めようという考え方を表すものであり、新しい言葉とは考えていない。
- ・綺麗にまとまっていて異論は無いが、市民目線で見ると綺麗にまとまり過ぎていて現実味が湧かない。文章が優等生的であり、面白くない。堅すぎずに、市民が食いつきたくなるような書き方をしてはどうか。
- ・記載が具体的に欠けるのは指摘のとおりだが、基本計画は最上位の計画であり、具体的な記述は個別の計画でカバーされる。具体的な記述は、長期間の基本計画では難しいのではないか。
- ・協働と参画を貫くことになっているのだから、全編にわたって、行政側の役割、市民・地域側の役割、協働で行うこと3層に分けて整理できないか。
- ・全般を通じて、個人、市民全体、地域、行政の別に綺麗に書くことは難しいが、誰がやろうとしているのか推察がつくような文章表現を考えるべき。
- ・抽象的な表現に感じるのは、記載方法の影響もあるのではないか。「～を通じて、～します。」という表現ではなく、「～のために、～をする。」と記載してはどうか。
- ・全体を通じて、今後15年間で取り組むべきことを「例えば～によって」などと例示するなど、具体的に書いた方が良い。
  - （事務局）
  - ・ 先駆的な取り組みをコラムとして掲載することなどを検討している。

## 【ともに支えあう社会をつくる（第2部）について】

（現状と課題について）

- ・見守りや介護等を要する高齢者が増加することから、在宅医療ニーズの高まりについても記載するほうが良い。
- ・増加傾向にある障害者に加え、うつ傾向にある人、アルコール依存症の人、自殺願望者等に対する精神面のケアの必要性を記載するほうが良い。
- ・「虐待」という表現は前後のつながり上唐突であるため、「子育てに悩む親の支援」とするなど、ともに支えあう必要性や、支援の対象となる人を記載する形に整理が必要ではないか。

（めざす姿について）

- ・取り組み主体として「地域医療機関」も記載するほうが良い。
- ・「障害者が周囲から必要とされる」という表現は、障害者にとってプレッシャーにならないか。
- ・住み慣れた地域の中で障害者を孤立させないことが大切であると思う。
- ・ともに支えあうより、むしろ持てる能力を出し合って貢献し合う方がポジティブに響く。文中では「自分なりに社会に貢献」と表現できないか。

（ともに進める取り組みについて）

- ・ともに支えあう社会をつくるという事は、社会生活を送る上で一番困っている、悩んでいる、大変な人を全力で応援するというを示せれば良い。

## 【安心なくらしを守る（第2部）について】

（ともに進める取り組みについて）

- ・P27の①-キの「自分たちの健康は自分たちで守る」という理念のもと」という表現は、健康でない人などは社会の隅に追いやられる印象を受ける。理念ではなく心構えではないか。

## 【一人ひとりを大切にする（第3部）について】

- ・文面は素晴らしいが、本当にこのとおりにやっていけるか気になる。
- ・仁川との友好都市提携は素晴らしいことだ。

（ともに進める取り組みについて）

- ・国際都市神戸として、主要な役所の窓口には通訳の配置を願いたい。
- ・神戸は昔から外国人にとって非常に住みやすいまちである。
- ・外国人といっても神戸には何十か国の人が住んでおり、その中には困っている人もいない人もいる。どのようなことに一番困っているのか調査できないか。
- ・外国人にとって一番大切なことは医療関係だと思う。
- ・外国人の中にも様々な状況の外国人がいるということは、子どもや障害者などにも該当する話である。
- ・一人ひとりを大切にするには、いかに人権を守っていく社会をつくるかという視点が必要である。

## 【子どもを健やかに育む（第3部）について】

（めざす姿について）

- ・神戸の子ども達には、心豊かにたくましく生きる人間となってほしい。子ども達の心の核になるのは、自分の属している組織の知識をベースにした思いやり、愛、神戸への思いではないか。

- ・めざす姿は、今の案ぐらいで収めないと収拾がつかなくなる。  
(ともに進める取り組みについて)
- ・P41の④「子どもの安全・安心や生活環境を守ります」について、もう少し具体的な記載のほうが良い。
- ・P41の⑤「保護が必要な子どもへの対応を充実します」における発達障害にかかる記載は、成年した人も含めて「発達障害児(者)」にしてはどうか。
- ・計画は、こういう形になると市民に分かる表現にするほうが良い。例えば、P41の⑥「生きるための基盤づくり」も、「子どもが笑顔で通えるような学校をつくります」とし、そのために、「確かな学力を育てます」と表現するほうが良い。また、健康・体力は別の項目にするなどほうが良い。
- ・P41の⑥-エは、読む側からすれば、「グローバル社会をたくましく生きるためのコミュニケーション能力」とするなど、行政目線ではなく、市民目線の表現に改めたほうが良い。
- ・P42の⑦は「市民の信頼に応える学校力の向上や教育力の向上」とすれば信頼を回復することが伝わる。
- ・P42の⑧は「市民が楽しめるスポーツや生きがい」としてはどうか。
- ・日本の教育のキーワードは「豊かな心」と「生きる力」であり反論のしようがないが、具体化は難しい。
- ・豊かな心の一つは、自分を律する、我慢する心。思いやりや愛情を入れることもできるかもしれない。なかなか結論の出ない話だが、議論が煮詰まって方向性が出るようであれば載せればよいのではないかと。

#### 【まちの安全を確保する（第4部）について】

- ・学校や区役所等の公共施設、橋梁等の耐震化は進んでいるか。

#### 【みんなでわがまちを育む（第6部）について】

- ・コミュニティづくりは、人材育成やネットワークづくりのプロセスになる。地域コミュニティは、見守りや医療、防災などを担う必要があるが、それらに係る記載がない。主体別に書くことも重なるが、再掲するなど工夫できないか。
- ・コミュニティの担い手は高齢の方が多く、若い人や新しい人が入り込んでいないという現実がある。これまでも色々な仕掛けをしているが中々活かされておらず、果たして実現できるのかと不安になる。
- ・引き続き、「今後の審議日程（資料7）」の説明を求め、事務局より資料に基づき説明を行った。
- ・会長により閉会が告げられ、本会議は終了した。

以 上

## 神戸市総合基本計画審議会 第4回活力・魅力部会議事要旨(案)

日時：平成22年3月29日(月)9:00～11:01

場所：神戸市役所1号館28階第4委員会室

出席委員：加藤恵正部会長ほか16名

### 【議事要旨】

- ・ 議事に先立ち事務局より、資料2「審議経過」及び資料3「第2回総会議事要旨」、資料3の参考資料「追加委員意見」の説明が行われた。
- ・ 加藤部会長から議事次第に従い議事に入る旨発言があり、本日の議題である「神戸づくりの指針素案」(資料4「第2回総会資料」及び資料5指針素案「概要版」)により、事務局より順次、説明が行われ、審議された。(審議内容についての委員意見は以下のとおり。)

### 【神戸を取り巻く社会・経済の動きについて】

- ・ P9 世界や日本の動きは動向分析しているが、その中で神戸のスピードは速いのか、どういう方向に向くのか、そういった分析があれば、わかりやすくなるのではないかと。
- ・ P11 関西メガリージョンの形成について、広域連携を結んでいくことは必要不可欠で大事であるが、P15「道州制の導入も見据え」との記述は、「導入することの議論も見据えて」などがよい。道州制まずありきの表現ととられると影響が大きい。  
〔道州制については、基礎自治体重視や地方自治法改正などの最近の動きもあって、確度が時事変わっている。今後ともそれらを踏まえ考えたい。(事務局)〕

### 【働きやすい環境を整える】

- ・ 指針は市がこういう方向だということがわかる。神戸で育って保育所から大学まで公教育を受けた者が就職して東京に税金を払っている。P28「働きやすい環境を整える」はそのとおりだがもう少し深めてほしい。

### 【ものづくり産業を発展させる】

- ・ 町工場がまちにとって役立つことは仕事の間をつくること。現状、機械金属工業会会員企業は倒産こそ免れているがまだ水面下にある。中小企業に企画力が無いことも事実であるが与えられた仕事を忠実にこなしてきたからであって、「企画力が無い」というより「必要でなかった」という表現がよい。
- ・ 企画力も大事だが、経営企画力、自社の進むべき方向をどうするか。企業は必ずしも大きくならなくてもよく、設備を特化して少人数でも業績のすばらしい企業も多い。経営企画力を高めることが大事である。人材も学校だけでなく実社会での経験も大事である。
- ・ P33④の企画力は企業が自発的に取り組む課題で、マッチングは行政がコーディネートできる部分。「企業」が努力することと「行政」や「学」とが力を出しあって進めていくことなどあるだろう。企業収益が落ちて可処分所得の減少に対しては、女性や障害者の社会参加や平均所得底上げ策などが考えられるが、記述は部局縦割的で連携しているように見受けられない感じがする。
- ・ 大企業の事業再編成により神戸の事業所を閉めて移転すれば中小への影響は大きい。そのようなことのないよう大企業と情報をとりあうなど神戸から出て行かないよう考えることが大事。

### 【観光交流と企業誘致を進める】

- ・ デフレで魚の価格が下落しているので市場ある市が発展しないといけない。観光に力を入れてほしい。神戸がどんなまちかを知っている若者が少ない。隣の京都の若者も神戸を知らない。安心して観光できることをアピールするなど、観光客を増やすことでの経済効果は大きい。
- ・ P34 滞在型観光を推進するのは大変よいことである。長期の1〜2週間滞在となるとホテルでない施設が必要となると思う。そういった施設を考えるなどすればどうか。
- ・ P45④イ、有馬等の記述や P35②ア「開港の歴史」を幕末明治期とすれば兵庫の津がとんでしまう。概要版 P2 幕末以降も同様。「古代以来の国際港都の歴史」などがよい。幕末明治の開港は神戸の歴史のスタートではなく、港まちの歴史があつて開港に至ったものである。
- ・ 京橋の海軍操練所跡碑に、最近、若い人や東京など遠方から多く観光で訪れている。
- ・ 「神戸」というブランドは知られているが神戸の中身を知らない人が多い。まちづくりはそれぞれで頑張っているが、分散されている須磨や六甲山、灘の酒蔵、兵庫の津などまずどこにいったらいいかわからない。わかるのは有馬ぐらい。観光地図がもらえたり観光ルート相談、案内のできる具体の施策が必要。

### 【「知の集積」を活かす】

- ・ 医療産業都市構想は市民にどういうメリットがあるか。高度医療と市民サービスの関係では、医療を受けるときに相談する場やサービスの提供をどう充実させていくかを書いてほしい。
- ・ 医療は時間がかかるもので10年、15年のスパンで考えないといけない。受けれる医療の最後に先端医療がある。患者の病気が一つの病院で治ったかどうか、先端医療ではどうだったのかという評価を個々に判断するのではなく、医療全体を通して患者満足度を評価するシステムをつくっていくことが必要である。基礎研究的な先端医療の役割も重要であり、その部分は日々の医療サービスの評価と切り離して考えていく部分もある。
- ・ 医療産業都市を市と一緒に進めていくなかで研究者が市民の声を聞く状況が生まれてきている。  
（神戸に研究者等の集積があるが、基礎から臨床、予防すべては難しく特化して進める必要がある。また、先端医療研究の成果が高額医療であれば市民は利用できないので、規制を持つ国などの支援をいただきながらどういった仕組みをつくっていくか、市民への理解を深め情報発信をしながら進めていきたい。（事務局）
- ・ P46③の健康について、最近、大学の公開講座でアンチエイジングに人気があり、指針でどこまで書くかということもあろうが、例示として入れてもよいかももしれない。
- ・ 理研の立地検討の際、関西にはバイオの文化があること、他都市では市の中心から公共交通で10分圏内で土地があるところがほとんどなかった。しかし、神戸は、都会であり農業と地下鉄で結ばれていて、知の集積だけでなく、新しいアイデアが出てくる。
- ・ 知の集積について、「けいはんな」研究都市では、研究所や企業が集積していたが企業が抜けていっていると聞いている。ポートアイランドでは、企業が留まるモチベーションを高めること、維持拡大していく視点も大事であり、そういった仕組みも盛り込まれたら良いと思う。

### 【低炭素社会を実現する】

- ・ 低炭素 P54③の都市構造だけではなく機能も入っている。官がすることだが「形成する」といってよいか。官だけでも民だけでもできない、構造・機能・運営といろいろ入っている。構造だけでなくい

かに運営するかが大事。

- ・ 低炭素社会について、例えば、ポートアイランドⅡ期で太陽光発電を行い、住宅の多いⅠ期の電力需要を賄うなどどうか。

### 【協働と参画をさらに進める】

- ・ ポートアイランドで先端医療を進めるなかで患者団体等と対話をしてきたが、大学との関連は少ない。例えば、NPO法人の記載であれば縦割りで書くのではなく横のつながりを書いてほしい。患者団体で寄付控除を受けられる公益法人法をクリアする団体はない。寄附による資金が入らずに困っており市民基金など含め市で融通するなどできないか。大学は先生との対話だけでなく患者団体とつなぐコーディネーションの役割を担う人や機会があればよい。

### 【効率的な経営をさらに進める】

- ・ 市民サービスをどう考えるのかの視点が少ないと感じる。ワンストップサービスなど、市民サービスがどうか変わっていくのか、まとめなどにいれてはどうか。

〔概要版 P1「神戸づくりにも取り組む」、P8の「協働と参画」「効率的な経営」のところに今回はまとめて書いているところであるがわかりにくいようであれば検討する。(事務局)〕

### 【多様な「人材」により神戸の力を高める】

- ・ 「人材」の表現は途中から「人材」となっている。神戸は「ひと」を財産と思っているんだと最初に宣言をして冒頭から「人材」を使えばどうか。
- ・ まちとしてこれからどういう人材が必要とされているのか。無から有を産む、組み合わせで新たなものをつくる発想力を持った人材が必要。行政・企業・市民が具体に実践し、動きがあることを市民は感じ取りたいと思う。どういった人材を必要とするのかを明確に記述すればよい。

〔「人材」の表現については、都市戦略の観点から十分に表記できているかであるが検討する。(事務局)〕

### 【全般について】

- ・ 今後どのような産業を目指していくか、ある程度ビジョンを示されているのでよいと思う。
- ・ 全体的によくできているが横浜でも使える。神戸であれば防災、異文化共生、先端医療等をもっと書けばよい。
- ・ この状況でつくれば指針はこんなものだろう。行政がどこに重点をおいて予算をつけるかが見えてはじめてわかるものだと思う。
- ・ 2025年の社会は今考えても違ったものが出現する場合に備え、複数のプランニングを、議論する上で考えると抜けや突っ込むべきものが見えてくる。時間軸も5年、10年後に実現すると書くと誰が何をするか、具体的な主体が見えてきて納得感のある提言になると思う。
- ・ P68に各主体の役割が書いてありそれでよいが、これからはリーダーシップ、主体者、フォロアー、支援の4つの立場が必要になってくる。具体的に事業として進める段階では、自分がなすべきことはなにかをわかるようにしていただければよい。
- ・ 企業がすることや行政サポートなど主語があいまいな部分の表現整理を行っていききたい。この指針は、従来の縦割りから脱却すべくつくられていると思うが、経済と人づくりの接点、経済領域とのかかわりなどは、最後に人材の方向性の部分でまとめている。もう少しわかりやすくできないか考えたい。

〔主体の役割については各部ごとに書く方法もあるが、P68、P69にまとめて書いている。わかりにくいようなら検討したい。具体的な取り組みの記述については、会長、副会長からも指摘を受けており、抽象的なものになっているが工夫をする。タイムスケジュールは2025年の方向性を指針で書いて合意をいただき、主体ごとの記述や個別事業などは重点施策計画で書くことを考えている。(事務局)〕

- 神戸として誇りある歴史性、神戸発祥のもので日本全体の中心を形成してきた文化、外から見られたときにもっと神戸の良さがあるはずでありそういったものも強調するとよい。
- 政権が変わると当然国の方針が変わる。みなとも大阪シフトの可能性もあるし、規制緩和や公共事業を抑えてつぶれる業種もある。次世代スーパーコンピューターの事業仕分けの例をみればわかるが、政権交代の影響にも左右されない「神戸はここを守る」という考え、記述がほしい。
- 世界経済が大きく動いている。国の国土計画が取りやめているなかで市の総合計画は法律で残っており地方では作る義務があり、10年や25年目指して書かないといけない。どんな変化のなかでも守るべきもの、安全安心まちづくりが世界的にも神戸の主張のひとつのポイントである。市民生活の維持など指針の中で活かしていければと思う。難しい問題も多々あるが部会長ともにまとめていきたい。他の都市にない神戸の進む方向について、また、神戸の良さをどう活かしていけるかまとめていきたい。
- どのように成長を見通すかは難しい時代である。キーワードとしては、「多様性」があり、また、多様性を展開するための共通した想いが、共通の創造の地盤になりうる。シリコンバレーのスタンフォード大がよく言われるが、日本では、大学だけでなく行政が果たしてきたところもあるが、今後は、パートナーシップ、新しい協働の仕組みをつくっていくということ。事務局とともに整理してとりまとめていきたい。

以 上